

多利用型統合的海域管理計画のデザイン (海洋生態系の保全)

1. 基本方針

知床の海洋生態系を維持・保全するために海洋生態系に漁業も組み込んだ多利用型統合的
海域管理計画を策定する。

このためには以下の方針により策定することとする

- (1) 持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みと海洋生物や海洋生態系の保全の
両立を目標とする。
- (2) 漁業関係規則や漁業者・漁業団体が当海域で実施している自主管理措置といった漁
業関連のルールを基調とする。

2. 保全のための基本的考え方

- (1) 遺産地域の海洋生態系が流水の存在や水温の変化によって特徴づけられている旨
記述
- (2) 知床海域を特徴づける生態系として上位性、典型性、特殊性の視点から注目される
動植物の種や生物群集及び地域産業を指標とし評価する旨記述
- (3) 知床の海洋生態系に漁業を組み入れ、その結果、現在の海洋生態系が成立している
ことを記述

(海洋生態系に組み入れる漁業の記載方法)

〈水産資源の保護及び持続的利用に関する基本的な考え方を掲載〉

○ 水産資源の保護増殖と持続的な利用による漁業経営の安定

・ 漁業関係法令、規則に基づく保護管理の推進

(漁業関係法規以外の法令の取扱の検討)

・ 漁業者の自主管理の促進

3. 指標種等

(1) 上位性

知床海洋生態系の上位に位置する性質の種及び地域産業を選定

トド・アザラシ・海ワシ(特殊性と重複)など

(I) トド

〈保護・管理の取組〉

・ 地域の漁業管理の必要性和保護管理(駆除等)の考え方を記載

(II) アザラシ

〈保護・管理の取組〉

- ・地域の漁業管理の必要性と保護管理（捕獲等）の考え方を記載

(2) 特殊性

知床海洋生態系が特殊な環境であることを示す種を選定

オオワシ・オジロワシなど

(I) オオワシ

〈保護・管理の取組〉

- ・ オオワシ保護増殖事業計画の趣旨に沿った記載

(II) オジロワシ

〈保護・管理の取組〉

- ・ オジロワシ保護増殖事業計画の趣旨に沿った記載

(3) 典型性

知床海洋生態系の特徴を典型的に表す種を選定

サケ類・スケトウダラ・植物プランクトンなど

(I) サケ類（シロザケ、カラフトマス）

（サクラマスについては漁獲が少なく、資源調査も十分に行われていないことから、掲載することの適否について検討が必要）

- ・ 水産資源保護法による保護培養

遡河魚類の保護培養→人工孵化放流

遡河魚類の通路確保

内水面での採捕禁止

- ・ 北海道海面漁業調整規則による管理

漁法制限・体長制限

- ・ 北海道内水面漁業調整規則による管理

内水面での採捕禁止期間の設定（サケ周年）

河口付近等におけるさけ・ます採捕の禁止

- ・ 定置漁業権による管理

根拠→漁業法

内容→魚場の位置、漁業時期

- ・ 漁業者の自主管理（記載方法の検討）

休漁措置

(II) スケトウダラ

- ・ TAC設定による管理

国はTAC法に基づいて毎年決定する基本計画の中で、指定魚種の漁獲可能量を定めている。

（資源管理協定による管理は「・漁業者の自主管理」の中で扱う）

- ・ 知事許可漁業（許可枠・制限・条件等）による管理

根拠→北海道海面漁業調整規則

制限→操業区域・許可隻数・漁船規模・漁具（網目）制限等

- ・ 漁業者の自主管理（記載方法の検討）

資源管理協定による管理

禁漁期間・区域設定、漁具（網目）制限等

（Ⅲ）植物プランクトン

（4）その他

○ 人間活動

a 清掃活動

b 漁場環境の保全（マリンデブリス）

c 利用適正化方策

- ・ 遊漁による海域や水産資源の利用
- ・ カヤッキング等海洋レクリエーションによる海域の利用

（現在、「国立公園利用適正化検討会議」で検討中であり、海域管理計画に掲載することの適否について検討が必要。）

4. モニタリング

（1）トド

（Ⅰ）モニタリング手法

- ・ 定点調査により出現個体数の変化を把握（水産庁の協議が必要）

（Ⅱ）今後の取組方向

（2）アザラシ

（Ⅰ）モニタリング手法

- ・ 定点調査により出現個体数の変化を把握

（Ⅱ）今後の取組方向

- ・ モニタリング→評価→措置→モニタリングの対応方針を記載

（3）オオワシ

（Ⅰ）モニタリング手法

- ・ 飛来数調査・越冬状況及び繁殖状況

（Ⅱ）今後の取組方向

- ・ モニタリング→評価→措置→モニタリングの対応方針を記載

（4）オジロワシ

（Ⅰ）モニタリング手法

- ・ 飛来数調査・越冬状況及び繁殖状況

（Ⅱ）今後の取組方向

・モニタリング→評価→措置→モニタリングの対応方針を記載

(5) サケ類

(I) 調査研究、モニタリング及び資源評価

・サケ類に関する調査研究及びモニタリング

(・来遊の予測など資源評価システムについて検討)

(II) 今後の取組み方向

(現行のモニタリングや取組みの改善点、将来の取組み方向等についての科学委員会 (WG) からの助言を記述。)

(6) スケトウダラ

(I) 調査研究、モニタリング及び資源評価

・スケトウダラに関する調査研究及びモニタリング項目を記載

・TACの資源評価システム

(II) 今後の取組み方向 (現行のモニタリングや取組みの改善点、将来の取組み方向等についての科学委員会 (WG) からの助言を記述。)

(7) 植物プランクトン

(I) モニタリング

(II) 今後の取組方向

モニタリング→評価→措置→モニタリングの対応方針を記載

5. 管理体制